

校長室から

自分（たち）で決める

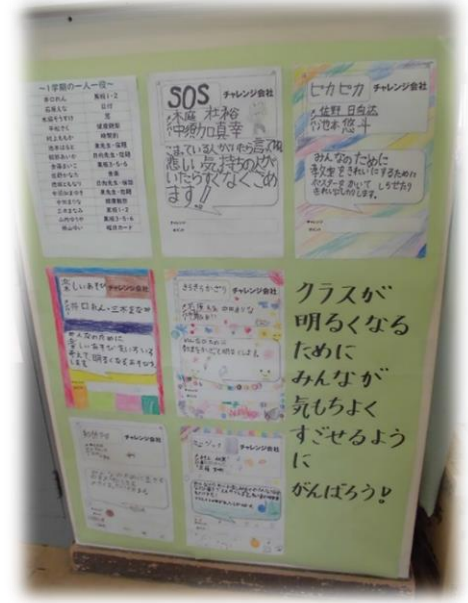
張り切ってスタートした令和4年度。始業式の翌日から授業は始まりました。

私は2年生の国語の授業を見ていました。タイトルは「ことばのちから」です。先生が「これからことばについて学習しますが、みなさんはこの学習でどんなことばの力をつけたいですか」と数時間分の学習内容の流れを児童と一緒に見ながら問いかけます。すると児童は「人の話を聞く力」「人にわかりやすく話す力」などと思い思いに自分のノートに書いています。

次に3・4年生の学活の授業を見ました。児童からの「明るく、みんなが気持ちよくくらせるクラス」にしたいという思いを板書して、「どういう係をつくったら、明るいクラスになりますか」と先生が問いかけます。しばらく時間をとって児童は真剣に考えています。

児童から出てきた係（係を会社に見立てています。）の仕事は、SOS チャレンジ会社、仕事内容は悲しい人がいたらすぐになぐさめること。きらきらかざりチャレンジ会社、仕事内容はみんなのために教室をかざって明るくするそうです。他にもピカピカチャレンジ会社、楽しいあそびチャレンジ会社、動植物チャレンジ会社、ミュージックチャレンジ会社が次々に設立されました。

ずいぶん授業が変わったなと思いました。そうです。大切な時間に自分のどんな力を身に付けようとするのか、今ある力をどう使えばよいのかを、先生ではなく児童自身が決めているのです。学習や生活をしているのは児童です。自分で自分や自分たちの生活を振り返り、必要なことを考えることで、授業や生活が他人事ではなく自分事になっていくのですね。なるほど。



1年生が主役の入学式

12日には新入生3名を迎える入学式が行われました。上級生を代表して6年生だけが参加しました。

9名の6年生に対して3名の新入生です。3名の6年生が1名の新入生を誘導しての入場です。

昨年も1年生にお花のプレゼントを6年生が渡しましたが、今年度は6年生が座った新入生に合わせてしゃがんで渡し、相手を意識した見事な対応でした。

6年生からうれしそうに受け取った新入生は角山っ子39名の仲間入りを果たしました。